



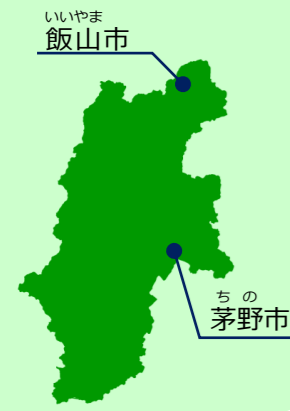
わくわく自然教室

～ Waku Waku Shizen Kyoshitsu ～

府中市教育委員会では、義務教育9年間を見通し、小・中学校での宿泊行事の充実を図っています。
令和5年度から、府中市立小学校では、「わくわく自然教室」として全ての小学校で3泊4日の新たな宿泊行事を実施しています。「わくわく自然教室」では、現地のネイチャーガイドやインストラクター等の協力を得ることで、体験活動の充実を図っています。

令和5年11月
府中市教育委員会

1 「わくわく自然教室」は、どこで行われるのですか。



「わくわく自然教室」は、長野県の飯山市と茅野市で実施しています。飯山市と茅野市のある長野県は、南北に長く、四方を山々に囲まれています。飯山市、茅野市のいずれも、府中市からのアクセスもよく、豊かな自然に囲まれ、その土地の人々、地元の企業や団体の協力により、年間を通じて様々な体験ができる環境があります。また、長年、多くの学校の宿泊行事を受け入れてきた実績と、医療機関を含めた、安全管理体制が整備された地域です。

飯山市、茅野市共に、その土地ならではの教育資源があり、市立小学校では、各学校が様々な体験を選択し、学校独自の体験を計画するなどの工夫を凝らすことで魅力ある「わくわく自然教室」を実施しています。



飯山市における体験活動例

飯山市における「わくわく自然教室」の特長の一つに農家民宿での「分泊」（学年・学級単位で宿泊するのではなく、グループに分かれての宿泊）があります。宿泊する民宿は、いずれも近い距離にありますが、子供たちは、それぞれの宿泊先で、家族の一員として農村ならではの生活が体験できます。

自然から学ぶ



「ラフティング」では、日本一長い川である信濃川（長野県内での呼び名は千曲川）を、仲間と協力して下りました。



「斑尾高原トレッキング」では、子供たちはトレッキングを楽しみながら、現地のネイチャーガイドから植生等について教えてもらいました。



朝もやのなか、ラジオ体操をしました。高原の新鮮な空気を全身で感じることができました。

地域から学ぶ



長野県はりんご産地としても有名です。りんご農家の方から実を摘み取るコツを教えて、りんごの収穫を体験しました。



宿のお父さん、お母さんと一緒にキュウリを収穫しました。飯山の分泊では、宿泊先で「農業体験」もできます。



飯山の伝統工芸「内山紙」の手すきを体験しました。紙の中に様々な形の色紙を散りばめ、世界でただ一つの自分だけの和紙を作りました。

分泊で学ぶ



宿のお母さんと一緒に、上杉謙信が食べたといわれる飯山の郷土料理「笹ずし」を作りました。



宿のお父さんから竹細工を教えるもらいました。竹細工のほか、わら細工や、調理体験など宿ごとの体験活動があります。



タブレット端末を使って、本部の先生と各宿の子供たちをオンラインでつなぎ、班長会議などを行いました。

茅野市における体験活動例

茅野市における「わくわく自然教室」は、一つの宿泊施設に学年で宿泊します。茅野市の標高は、766mから2,899mまでに渡り、山や湖、湿原などの豊かな自然環境と、高原の気候を生かした農業や、世界的に有名な製造業などの伝統産業があり、充実した体験活動ができます。

自然から学ぶ



国の天然記念物でもある「八島湿原」では、ガイドの方の説明を受けながらハイキングをしました。



「車山高原」からは、富士山や北アルプスなどの山並みを望むことができます。



現地の NPO 法人の協力の下、八ヶ岳でウォークラリーをしました。子供たちは地図を見ながら、協力してチェックポイントを周りました。

地域から学ぶ



「林業体験」では、枝切りの実演を見学したり、実際にのこぎりを使って木を切ったりしました。



長野県は標高の高さを生かした高冷地栽培が有名です。地元の農家の方に教わりながらトウモロコシ等の収穫の「農業体験」をしました。



諏訪地域は古くから精密機械工業が盛んな地域です。子供たちは、工場見学のほか、工作機械の操作などを体験しました。

宿泊で学ぶ



白樺湖の湖畔にある芝生広場で様々なアクティビティに挑戦しました。協力して取り組み、楽しみました。



八ヶ岳の麓には、約1万年以上前の縄文時代から多くの人々が暮らしていました。子供たちは石臼を使うなど、当時の暮らしについて学びました。



キャンプファイヤーでは、学年で焚き火を囲みました。宿泊行事ならではの特別な体験を共有しました。

集団の中で共に取り組み、共に学ぶ価値ある体験

小学校高学年の時期の子供たちは、社会的な広がりが増し、自分の活動を人々の活動と重ね合わせ、つながりを感じることができるようになります。このため、学校では、教育活動を通じて、多くの人々と関わるようにし、集団生活の中で子供たちの協調性・自律性を育むことや、社会には様々な仕事や活動をしている人たちがいることに気づくことなどを学習活動のねらいにしています。

「わくわく自然教室」では、様々な体験をすることだけが目的ではなく、体験後に振り返り、自らが体験したことの意義や、体験から得たものについて考えることで、体験活動の価値を、より高いものにしていきます。



※ 各体験活動例は、各学校で実施している体験活動の例であり、実施する時期等によって異なります。

2 どうして「体験活動」が大切なのか。

体験活動とは、子供たちが、直接自然や人・社会などとかかわる活動のことで、具体的な体験を通じて、子供たちは考えを深め、実際の生活や社会、自然の在り方などを学びます。

体験には、対象となる実物に実際に関わる「直接体験」のほか、インターネットやテレビ等を介して感覚的に学びとる「間接体験」、シミュレーションや模型等を通じて模擬的に学ぶ「擬似体験」があります。

近年、特に都市部では、「間接体験」や「擬似体験」の機会が圧倒的に多くなり、子供たちの成長に影響を及ぼすことが懸念されており、子供たちが直接体験できる体験活動の充実が大切になっています。



3 「宿泊」を伴う学習の大切さについて教えてください。



府中市では、「未来へつなぐ府中 2020 レガシー」などの取組のなかで、身近な虫や植物の観察、稲作等の体験活動、市内の史跡を調査するなど、府中市の豊かな自然や文化に関する学習に取り組んでいます。

一方で、宿泊行事では、身近にない山林などの自然環境に触れたり、普段では経験できないようなことを体験したりします。また、保護者のもとを離れての集団生活は、子供と教員、子供たち同士、子供と現地の人々の人間的な触れ合いを深め、楽しい思い出をつくるだけでなく、基本的な生活習慣やルールなどを体験し、互いを思いやり、共に協力し合うことで、よりよい人間関係を築く機会となります。

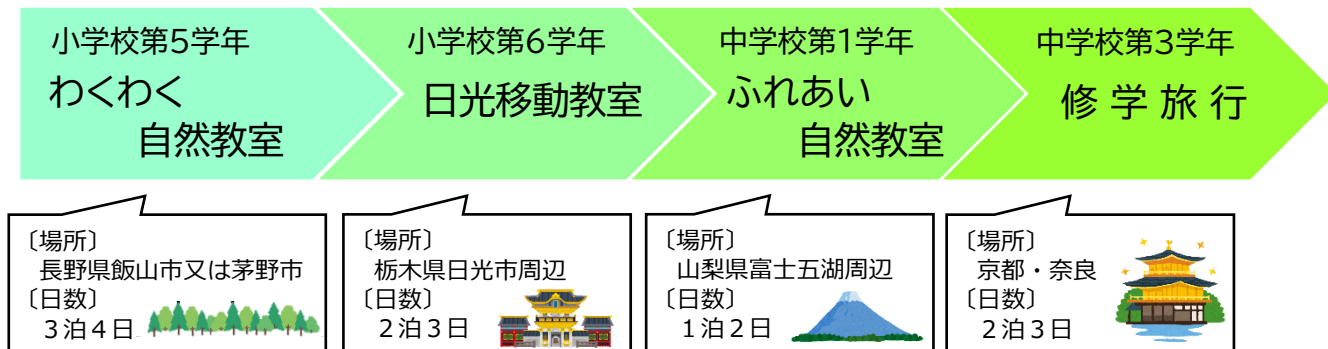
4 「わくわく自然教室」の実施場所を教えてください。

実施場所は、宿泊行事のねらい、目的に応じて、各学校で決めています。下の表は、令和5年度の実施場所になります。

▼令和5年度「わくわく自然教室」における各学校の実施場所

実施場所	小学校名
飯山市	府中第四小学校、府中第六小学校、府中第七小学校、府中第八小学校、武蔵台小学校、住吉小学校、新町小学校、矢崎小学校、若松小学校、四谷小学校、日新小学校
茅野市	府中第一小学校、府中第二小学校、府中第三小学校、府中第五小学校、府中第九小学校、府中第十小学校、本宿小学校、白糸台小学校、小柳小学校、南白糸台小学校、南町小学校

▼義務教育9年間を見通した市立小・中学校における宿泊行事



(参考) 府中市教育委員会ホームページ「令和5年度以降の市立小・中学校における宿泊体験学習について」

〔発行・問合せ〕

府中市教育委員会教育部学務保健課
指 導 室

電話 042 (335) 4435
電話 042 (335) 4063

